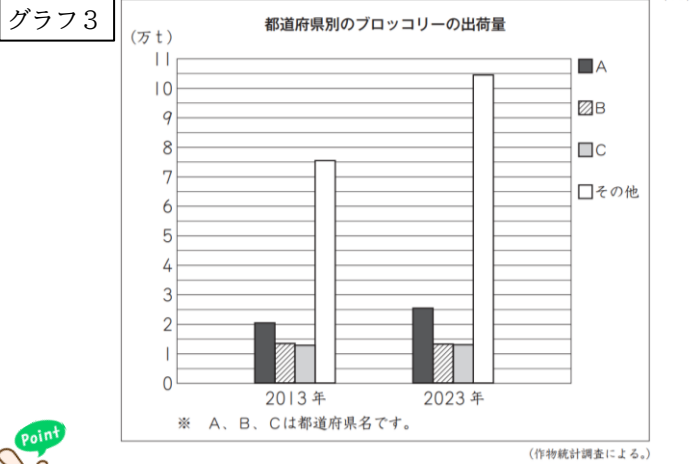
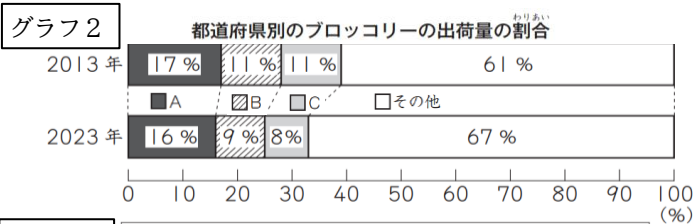


算数

1 (2) 目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題

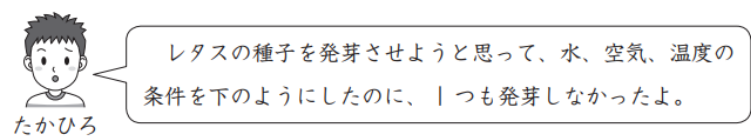


Point 目的に応じて複数のグラフからデータの特徴や傾向を捉え、全体量の大小を判断し、その判断の理由を他者に分かりやすく表現できる児童の割合が、全国と比べて高い傾向にあります。

本設問のような**多様な解決方法が可能な問題（非定型問題）は、一人一人の考えを関連付けることで、グラフが何を表しているかについて理解が深まり、思考力、判断力、表現力等の育成につながっていきます。**

理科

3 (4) レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することができるかどうかをみる問題



- 〈条件〉
- ・水あり
 - ・空気あり（種子が空気にふれている）
 - ・温度（室温）
 - ・日光なし（箱をかぶせている）
 - ・肥料なし

「調べてみたいこと」

水、空気、温度のほかにも、レタスの種子が発芽するために、必要な条件があるのかもしれない。レタスの種子が発芽するために必要な条件を、上の〈条件〉の中から1つ選んで調べてみたい。

Point 発芽する条件について、すでに検討した条件とまだ検討していない条件を区別し、一つだけの条件を取り上げて検討しようとするなど、**複数の事柄を関連付けて、自分の言葉で表現しようとする**ことが大切です。

一人一人が結果に基づいて必要な条件を選び、条件を統制したうえで、どう調べるかを考えることで、科学的思考がさらに深まっていきます。

－問題－

2023年の都道府県Aのブロッコリーの出荷量が、2013年より増えたかどうかを、ア（増えた）、イ（減った）から選びましょう。

- ・その記号を選んだ理由を、言葉や数を使って書きましょう。
- ・どちらのグラフのどこに着目したのかわかるようにしましょう。

－正答例－

記号【ア】

グラフ3をみると、2013年の都道府県Aのブロッコリーの出荷量は約2万トン、2023年の都道府県Aの出荷量は約2.5万トンで2023年の方が多。だから、都道府県Aのブロッコリーの出荷量は増えている。



算数 調査問題

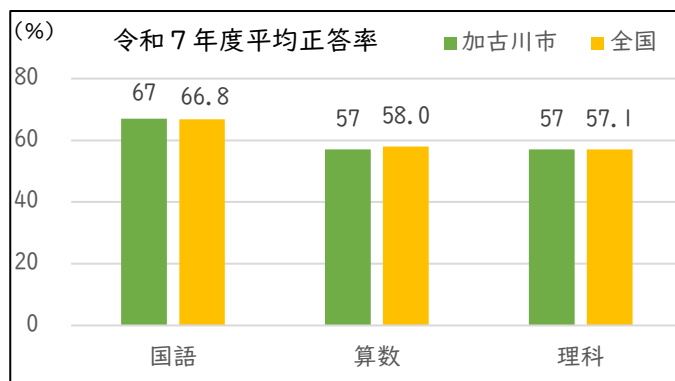
保護者のみなさんとともに考える

加古川市の学力・学習状況（小学校）

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果より

令和7年4月、児童の学力・学習状況の分析、成果と課題を把握し、授業改善を図ることを目的として、全国学力・学習状況調査が行われました。
この調査における加古川市の児童の現状を分析し、結果をまとめました。

- ・3教科とも平均正答率（以下、正答率という）は、全国平均（以下、全国という）と同程度です。
- ・**基礎的な知識や技能は身に付いており、成果がみられます。**
- ・思考力、判断力、表現力について、課題がみられます。
- ・**記述式問題で、自分の考えを書いている児童の割合が高く、協同的探究学習※の理念に基づいた授業の成果が表れています。**



掲載している内容は、学力・学習状況の一側面を示すものであることを踏まえつつ、**以下のポイント**に示すような「**協同的探究学習※**」の理念を取り入れ、授業の改善や家庭との連携のあり方について考えるきっかけとし、これからの時代に求められる資質・能力の育成を図ります。



協同的探究学習※
についてはこちら

国語

2 三 目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題

物を包む使い方

手ぬぐいは、いろいろな物を包むことができます。

【調べたこと】

〈本を読んで分かったこと〉	〈使ってみて分かったこと〉
○ブックカバー ・何回か折るだけで、すぐに完成する。 ・本の大きさに合わせて包むことができる。 ○ペットボトルカバー ・ペットボトルを包んで持ち運ぶことができる。	○ブックカバー ・よごれがつくのを防ぐことができてよかった。 ・落としたときに、本がきずつかなかった。 ○ペットボトルカバー ・水てきが荷物につかなくてよかった。 ・温かい飲み物が冷めにくかった。

Point 自分の考えを書く児童の割合が、全国と比べて高い傾向にあります。誤答には、一方の条件については満たしていますが、もう一方の条件は満たしていないといった解答が見られました。

授業において、多様な考えを関連付けた後、**複数の箇所から言葉や文を選び出してつなげて書き表す**ことや、**自分の考えが伝わるように複数の情報を関連付けて書き表す**ことを、学習の中で行っていくことで、思考力、判断力、表現力等の育成につながっていきます。

－問題－

山田さんは、【ちらし】の書き表し方について相談し、下線部をくわしく書いた方がよいと考え、【調べたこと】を見直しました。
あなたが山田さんなら、どのように書き直しますか。

- ・【ちらし】の下線部を書き直し、くわしくすること。
- ・【調べたこと】の〈本を読んで分かったこと〉と〈使ってみて分かったこと〉のそれぞれから言葉や文を取り上げて書くこと。

－正答例－

手ぬぐいは、何回か折って本を包むとブックカバーになり、汚れがつくのを防ぐことができる。また、ペットボトルを包んで持ち運ぶこともでき、水てきが荷物につくのを防ぐことができる。



国語 調査問題

児童の学力を育む 家庭での取り組みポイント

※回答項目（例：「している／どちらかといえば、している／どちらかといえば、していない／していない」）のうち、「している／していない」など、2つを取り上げて比較しています。

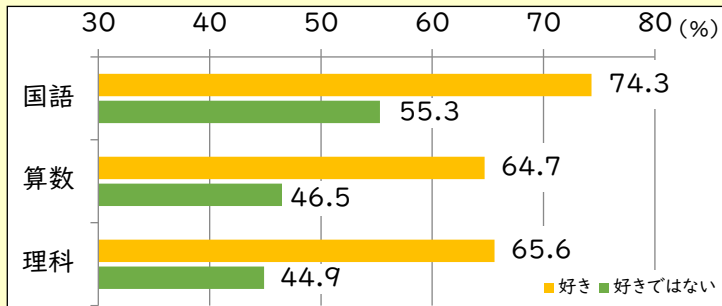
Point 読書

普段から（短時間でも）読書をしている、または読書が好きと回答した児童ほど、正答率が高い傾向がみられました。読書に親しむことで新たな知識を得たり、視野を広げたりすることができます。

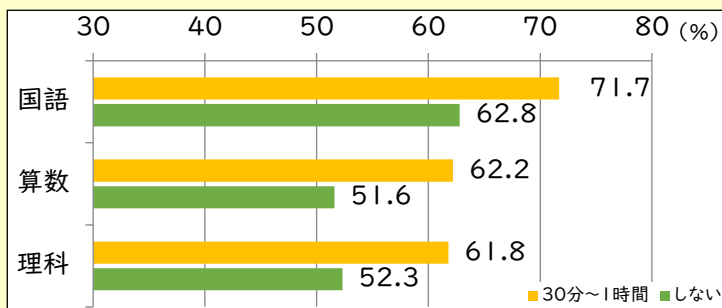
加古川市では、いつでも読書ができるように、**電子図書館に「読み放題」のコンテンツを導入**しています。利用者IDとパスワードは児童が持っていますので、児童の読書にぜひ活用してください。



読書が「好き／好きではない」と答えた児童の正答率



学校の授業時間以外（月～金曜日）の一日あたりの読書時間と児童の正答率

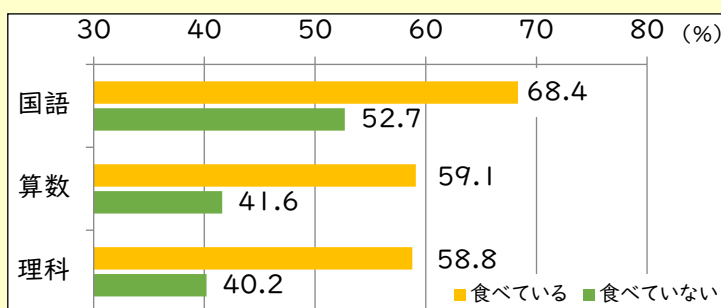


※回答項目には、他に「2時間以上／1～2時間／10～30分／10分以内」がありました。

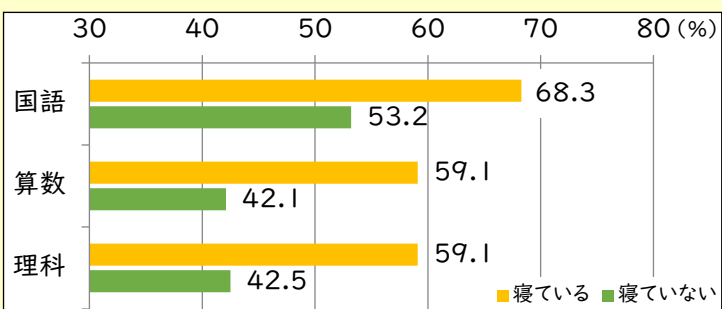
Point 早寝・早起き 朝ごはん

児童の学力向上には、学校での授業や家庭学習の充実に加え、**規則正しい就寝や起床、毎日朝食を食べる**など、基本的な生活習慣を整え、家庭での生活を充実させることも重要です。

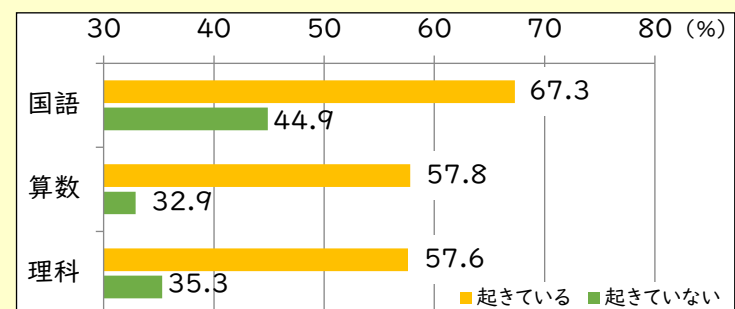
朝食を、毎日「食べている／食べていない」と答えた児童の正答率



毎日、同じくらいの時刻に「寝ている／寝ていない」と答えた児童の正答率



毎日、同じくらいの時刻に「起きている／起きていない」と答えた児童の正答率



Point 会話

授業では、「**協同的探究学習**」の理念を取り入れながら、一人一人の児童の考えを学級全体で共有し関連付けることで、児童は、新しいものの見方や考え方に気付いたり、自分の考えを深めたりしています。

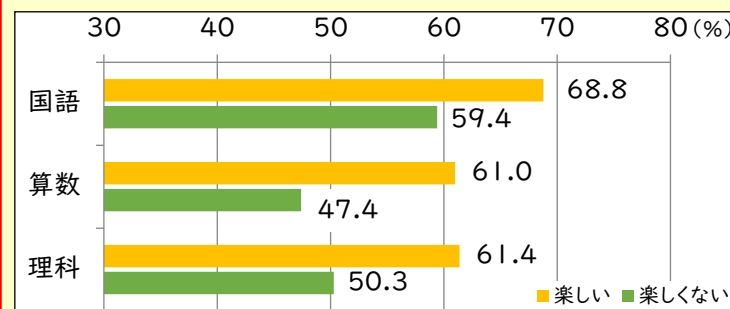
家庭でも、**様々な話題について、児童が自分の考えや考えた理由を説明したり、保護者の考えを聞いたりすることは、新しい見方や考え方にふれるきっかけ**になります。

また、児童は、**自分の考えや思いが受けとめられることで、認められたと感じる機会**にもなります。

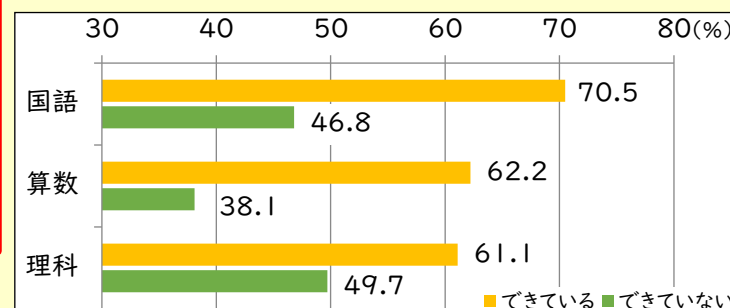
（例えば…）

- ・学校生活（授業・宿題、友だちなど）
- ・日々の出来事（最近あった面白いこと、テレビのニュース）
- ・将来について（進路、夢など）
- ・家族の予定や思い出話
- ・食べ物（給食のメニュー、晩ご飯のメニュー・食べたいもの）
- ・趣味や興味（好きな音楽・アニメ、ゲーム、ファッション）

自分と違う意見について考えるのは「楽しい／楽しくない」と答えた児童の正答率



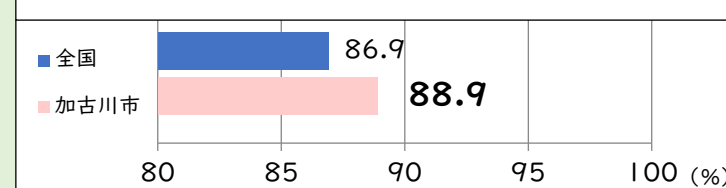
学級で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたり「できている／できていない」と答えた児童の正答率



自己肯定感が高い傾向にある 加古川市の児童

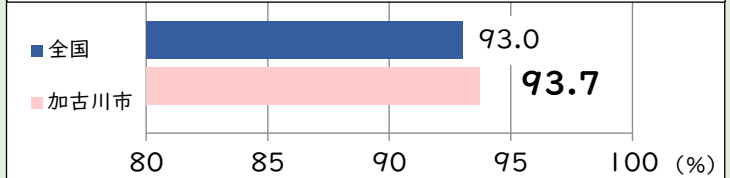
「自分にはよいところがある」と答えた児童の割合

※「よくある」「時々ある」と回答した割合のみ表記しています。



「普段の生活の中で、幸せな気持ちになる」と答えた児童の割合

※「よくある」「時々ある」と回答した割合のみ表記しています。



日本のこどもたちには、自分の考えに自信が持てず、表現できないという傾向がみられます。こどもは本来、自分の思いや考えた理由を表現したい、受けとめてもらいたいと思っています。

学校での**協同的探究学習**と同様に、**家庭での会話を通じて、「そうだったんだね」「なるほど」「わかるよ」と、こどものことばを肯定的に受けとめることで、自己肯定感が育ち、これからの人生を歩んでいくうえで大切なウェルビーイング（幸福度）も高まります。**



未来を拓く学び推進アドバイザー
東京大学大学院 藤村 宣之 教授